

第32回
インフルエンザ研究者交流の会シンポジウム
プログラム



金刀比羅宮

会期：2018年6月15日（金）～ 17日（日）

会場：サンポートホール高松

（〒760-0019 高松市サンポート2-1）

会長：藤井 豊（香川大学 医学部 環境保健科学教室 教授）

【会場】

サンポートホール高松（高松シンボルタワー内ホール棟）

URL: <http://www.sunport-hall.jp/>

JR 高松駅から徒歩3分

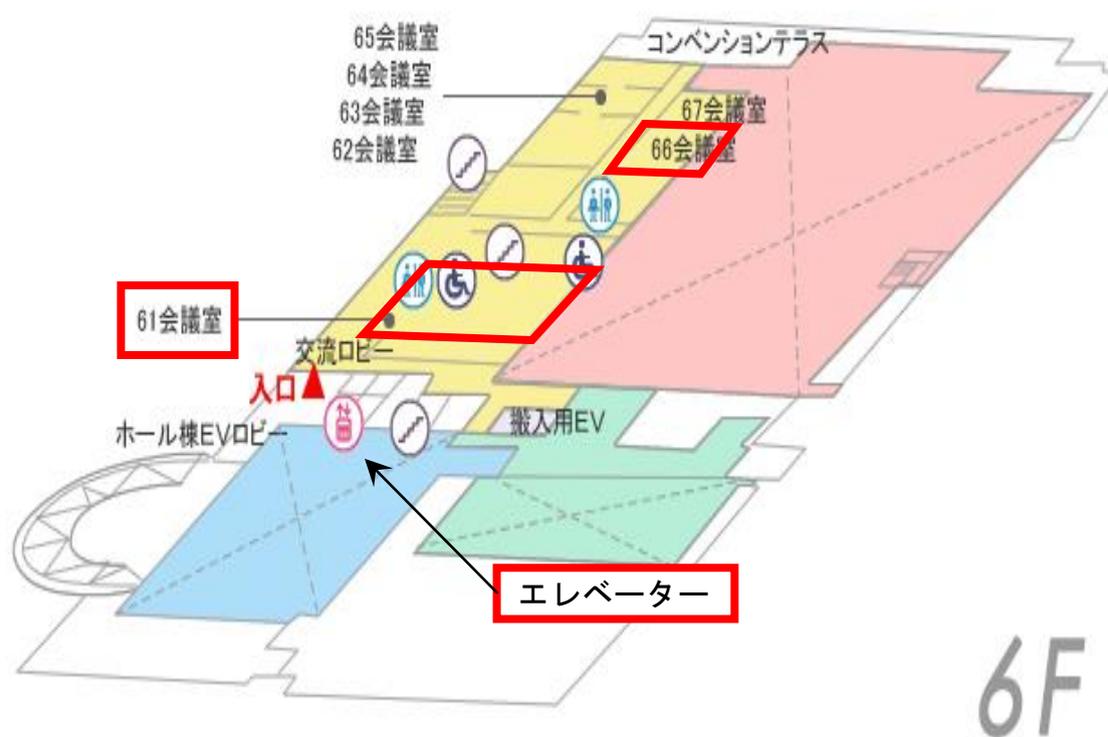
高松空港からリムジンバスで JR 高松駅行き約45分



表紙：金刀比羅宮 (<https://www.my-kagawa.jp/photo?keyword=金刀比羅宮>)
(転載不可)

【会場内案内図】

受付：6月15日（金）11:00～18:10 6階 61会議室前
 6月16日（土）09:05～16:00 6階 66会議室
控室：66会議室
会場：6階 61会議室



66会議室に荷物を置くことが可能です。
貴重品は各自でお持ちください。

【意見交換会】

日時：6月15日（金）18:30～20:30

会場：JR ホテルクレメント高松 3階 玉藻

〒760-0011 香川県高松市浜ノ町1-1

TEL：087-811-1111

<https://www.jrclement.co.jp/takamatsu/>

（サンポートホール高松の対面です。）

【参加者・発表者の皆様へ】

参加者の皆様へ

1. サンポートホール高松 6 階 61会議室前にて受付をお願いします。
(2日目は66会議室で受付を行います。)
当日の参加費は、8,000円です(学生は無料です)。
参加費領収書とネームカードをお渡しします。
会場内・意見交換会でのネームカード着用をお願いします。
2. 学会場での注意事項
会場内は禁酒・禁煙です。
会場内での写真・ビデオ撮影および録音は禁止します。
会期中の取材は禁止します。
発表内容の外部への無断引用は禁止します。

座長の皆様へ

時間内での進行にご協力ください。

発表者の皆様へ

1. 発表時間の厳守をお願いします。
一般講演：発表 15 分、質疑応答 5 分
2. 発表要項
 - ・本シンポジウムで準備する PC は、Windows 7、PowerPoint 2013 です。
 - ・スライドサイズは「標準 (4:3)」で作成してください。Power Point 2013 と 2016 の既定サイズは「ワイド画面 (16:9)」ですので、特にご注意ください。
 - ・動画、専用アプリケーション、最新バージョンのPowerPoint、または Macintosh をご使用される場合は、PC 本体をご持参ください。また、発表前に担当者にお知らせください。

- ・本シンポジウムでは、ミニ D-Sub15 ピン（オス）のケーブルを用意します。PC によっては本体付属のコネクタが必要な場合がありますので、その場合には必ずご持参ください。

3. データの受付

- ・発表用データは USB フラッシュメモリに保存して、休憩時間等に演者席 PC までお持ちください。USB フラッシュメモリは、事前にウイルスチェック駆除ソフトでチェックを行ってください。
- ・PC をお持ち込みの場合は、バックアップ用として USB フラッシュメモリに発表用データを保存してご持参ください。
- ・コピーした発表用データは、シンポジウム終了後に完全に消去いたします。

日程表

第 1 日目：6 月 15 日（金）

11:00～	受付（6階 61会議室前）
12:55～13:00	開会式
13:00～13:55	特別講演 1（東大医科研 河岡義裕）
13:55～14:05	休憩
14:05～15:05	一般演題 1
15:05～15:15	休憩
15:15～16:15	一般演題 2
16:15～17:15	一般演題 3
17:15～17:30	休憩
17:30～18:10	特別講演 2（塩野義製薬株式会社 熨斗武志） （塩野義製薬株式会社 土屋賢二）
18:30～20:30	意見交換会

第 2 日目 : 6 月 16 日 (土)

09:05~	受付 (6 階 66会議室)
09:30~10:40	一般演題 4
10:40~10:50	休憩
10:50~11:50	一般演題 5
11:50~13:30	昼食
13:30~14:25	特別講演 3 (Zifeng Yang, National Clinical Research Center for Respiratory Disease, Guangzhou Medical University)
14:25~14:40	休憩
14:40~16:00	一般演題 6
16:00~16:15	休憩
16:15~16:45	総会
16:45~17:25	一般演題 7
17:25~19:00	夕食
19:00~20:30	加地正郎先生を偲ぶ会

第 3 日目 : 6 月 17 日 (日)

09:40~15:00 自由討論会

本シンポジウムは、公益財団法人高松コンベンション・ビューローの補助事業として開催します。

加地正郎先生を偲ぶ会

第 2 日目 6月16日（土） 19:00～20:30

座長：西村秀一（国立病院機構仙台医療センター）

加地正英（函館五稜郭病院）

柏木征三郎（九州医療センター・名誉院長）

福田徹三（サイ・リサーチ）

特別講演

特別講演 1

第1日目 6月15日(金) 13:00~13:55

座長：藤井豊（香川大学医学部）

「スペイン風邪から100年」

河岡義裕（東京大学医科学研究所）

特別講演 2

第1日目 6月15日(金) 17:30~18:10

座長：岡松正敏（北海道大学大学院獣医学研究科）

「キャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害剤
ゾフルーザの創製と非臨床薬効」

熨斗武志（塩野義製薬株式会社 創薬疾患研究所）

「キャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害剤
ゾフルーザの臨床成績」

土屋賢二（塩野義製薬株式会社 グローバルプロ
ジェクトマネジメント部）

特別講演 3

第 2 日目 6 月 16 日 (土) 13:30~14:25

座長：西村秀一 (国立病院機構仙台医療センター)

“Lessons and Experience of Clinical diagnosis and treatment on H7N9 human influenza in Guangzhou, China”

Zifeng Yang (National Clinical Research Center for Respiratory Disease, Guangzhou Medical University)

一般演題

第1日目 6月15日(金)

14:05~15:05 一般演題1 症例報告、臨床研究、検査法

15:15~16:15 一般演題2 疫学

16:15~17:15 一般演題3 基礎研究

第2日目 6月16日(土)

09:30~10:40 一般演題4 ワクチン

10:50~11:50 一般演題5 基礎研究

14:40~16:00 一般演題6 基礎研究

16:45~17:25 一般演題7 抗ウイルス薬

第1日目 6月15日(金)

14:05~15:05 一般演題1 (症例報告、臨床研究、検査法)

座長：村木靖 (岩手医科大学医学部)

14:05~14:25

C型インフルエンザウイルスとコロナウイルスHKU1の重複感染による熱性けいれん重積状態に神経原性肺水腫を合併し人工呼吸器管理を要した1歳女児例

○大場邦弘¹、齊藤慎二²、高山郁代²、中内美名²、影山努² (1公立昭和病院、2感染研インフルエンザウイルス研究センター)

C型インフルエンザウイルスが関与した小児重症例を経験したので報告する。

14:25~14:45

インフルエンザ・ウイルスの“イキのよさ”を評価する

○田中敏博¹、中野貴司² (1静岡厚生小、2川崎医大小)

日常診療の中で汎用される迅速診断キットの精度と、それを用いたインフルエンザウイルス感染症の診断に関する考察です。

14:45～15:05

シアリダーゼ蛍光イメージング剤 BTP3-Neu5Ac を利用した高感度、簡易ウイルス検出系の確立

○高橋忠伸¹、紅林佑希¹、加藤大介¹、大坪忠宗²、池田潔²、南彰¹、鈴木隆¹（¹静岡県大薬、²広島国際大薬）

ノイラミニダーゼのシアリダーゼ活性の存在部位を蛍光イメージングするBTP3-Neu5Acを開発した。これを利用して、薬剤耐性インフルエンザを検出可能な高感度、簡易ウイルス検出系を確立した。

15:15～16:15 一般演題2 (疫学)

座長：渡邊真治 (国立感染症研究所)

15:15～15:35

横浜市における2017/18シーズンのインフルエンザの流行解析

○川上千春1、清水耕平1、小澤広規1、七種美和子1、百木智子1、宇宿秀三1、田中伸子1 (1横浜市衛生研究所 微生物検査研究課)

今シーズンはB型ウイルス(山形系統)が先行し、前半はAH1pdm09ウイルスが後半はAH3型ウイルスが主流となった。AH3型ウイルスは9割が変異株であり、HA遺伝子は大きく2グループに分かれた。

15:35～15:55

野鳥追跡による養鶏場への鳥インフルエンザウイルス侵入リスク要因の調査

○峯淳貴1、内田裕子1、西藤岳彦1 (1動衛研)

野鳥からどのようにしてウイルスが鶏舎に侵入しているのかを明らかにするため、野鳥に位置測定装置を装着して行動を追跡し、鶏舎周囲に飛来した渡り鳥の行動範囲・様式の解明を試みた。

15:55～16:15

スペインかぜによる日本の超過死亡

○菅谷憲夫（神奈川県警友会けいゆう病院）

1918年から1920年までの日本でのスペインかぜ流行による超過死亡は約50万人と計算され、当時の総人口の約1%に達した。

16:15～17:15 一般演題3（基礎研究）

座長：鈴木隆（静岡県立大学薬学部）

16:15～16:35

ノイラミニダーゼのシアル酸分子種に対する特異性の解析

○紅林佑希¹、高橋忠伸¹、山中隆史²、池田潔³、大坪忠宗³、南彰¹、鈴木隆¹（¹静岡県大薬、²JRA、³広島国際大薬）

哺乳動物が持つ主なシアル酸分子種のN-アセチル体とN-グリコリル体の違いに対するウイルスノイラミニダーゼの基質特異性をヒトおよびウマから分離されたウイルスを用いて解析した。

16:35～16:55

鶏卵分離埼玉株NAで認められたアミノ酸変異の生物学的意義

○渡邊真治、桑原朋子、高下恵美、白倉雅之、藤崎誠一郎、三浦秀佳、秋元未来、中村一哉、岸田典子、佐藤彩、小川理恵、菅原裕美、小田切孝人（感染研）

我々は、鶏卵での増殖後HAの抗原部位に変異が入らず、NAに多数の変異を認めたA/埼玉/103/2014株（H3N2）（鶏卵分離埼玉株）を分離した。本株のNAに認められたアミノ酸変異の生物学的意義について、得られた成績を報告する。

16:55～17:15

鳥インフルエンザウイルスの感染行動

○堺立也1、齊藤峰輝1、伊藤啓史2、伊藤壽啓2、岡松正敏3、迫田義博3、喜田宏3（1川崎医大微生物、2鳥取大共同獣医、3北大獣医）

インフルエンザウイルスはヘマグルチニンと受容体の結合の交換により運動し、この運動（感染行動）が宿主への感染性を高めている。今回、水鳥ウイルスの運動パターンを人ウイルスと比較解析した結果を報告する。

第2日目 6月16日(土)

09:30~10:40 一般演題4 (ワクチン)

座長：菅谷憲夫（神奈川県警友会けいゆう病院）

09:30~10:00

今シーズンのインフルエンザワクチン株選定の混乱と供給不足に陥った経緯について

○小田切孝人（感染研インフルエンザウイルス研究センター）

今シーズンのA(H3N2)ワクチン株の選定では、専門家会議の選定株と厚労省の決定株とが違ふという事態になった。これにより、ワクチン製造が出遅れ、接種期にワクチン供給不足を招くことになった。

10:00~10:20

細胞培養インフルエンザワクチンの実用化への取り組み

○信澤枝里、高橋仁、浜本いつき、鈴木康司、小田切孝人（感染研）

日本では現在、季節性細胞培養インフルエンザワクチンの開発が進められています。我々は、WHOが提唱するワクチン株の開発プロセスに則り、ワクチン株の開発等を進めており、その現状につき報告します。

10:20～10:40

2009年の本邦のパンデミックワクチンのNA抑制抗体誘導能について

伊藤洋子¹、西村秀一¹、萩原温久²、○木須友子¹、渡邊王志¹、佐藤光¹、高下恵美³、信澤枝里³（¹仙台ウイルスセンター、²萩原医院、³感染研インフルエンザセンター）

2009年、パンデミックの際に免疫学的にナイーブなポピュレーションから採取した血清の解析から、当時のパンデミックワクチンのNA抑制抗体誘導能が自然感染にくらべて格段に弱かったことを、見出した。

10:50～11:50 一般演題5（基礎研究）

座長：本郷誠治（山形大学医学部）

10:50～11:10

豚インフルエンザウイルスの国内流行状況と流行株を用いたワクチン攻撃試験

○竹前喜洋1、常國良太1、内田裕子1、伊藤啓史2、伊藤壽啓2、西藤岳彦1,3（1農研機構動衛研、2鳥大農、3岐阜大院連獣）

国産豚インフルエンザワクチンの製造には、39年以上前の豚分離株が使用されている。本研究では、国内豚インフルエンザウイルスの流行状況を明らかにし、流行株を用いて市販ワクチンを接種した豚の攻撃試験を行った。

11:10～11:30

ヒト気管上皮由来細胞株における鳥インフルエンザウイルス感染様式について

○大道寺智1、梶川純一1、渡邊洋平1、荒井泰葉1、中屋隆明1（1京都府立医大）

鳥インフルエンザウイルスのヒト気管上皮細胞における感染性の詳細は不明である。ヒト気管上皮細胞より細胞株を樹立し、鳥インフルエンザウイルスの感受性について検討を行ったので、その結果について報告する。

11:30~11:50

**インフルエンザウイルスのPAサブユニットのアセチル化修飾に伴う
エンドヌクレアーゼ活性調節**

○畠山大、小松嗣典、齋藤綾香、大西杏奈、榎山今日子、葛原隆（徳島文理大薬）

インフルエンザウイルスのRNA合成酵素を構成するPAはエンドヌクレアーゼ活性をもつ。本研究においては、PAがアセチル化を受け、それに伴って酵素活性に変化が生じることを生化学的に発見したので報告する。

14:40～16:00 一般演題6 (基礎研究)

座長：板村繁之 (国立感染症研究所)

14:40～15:00

鳥インフルエンザウイルスの α 2,3硫酸化シアル酸糖鎖認識機構の解析

○菊谷祐斗¹、岡松正敏¹、西原祥子²、高瀬明²、松野啓太^{1,3}、迫田義博^{1,3} (1北大院 獣医 微生物、2創価大 理工学部、3北大 国際連携研究教育局)

ニワトリから分離された鳥インフルエンザウイルスは、有意に α 2,3硫酸化シアル酸糖鎖を認識した。また、ニワトリの気管で発現している硫酸基転移酵素を遺伝子導入したMDCK細胞において高い増殖性を示した。

15:00～15:20

ヘマグルチニンにおけるスルファチド結合部位の解析

高橋忠伸¹、林野乃香¹、紅林佑希¹、大石健太¹、益田碧¹、川岸佐和子¹、藤田侑²、常盤広明²、○鈴木隆¹ (1静岡県大薬、2立教大理)

バキュロウイルス発現系により作製したHAを用いてスルファチドとの結合性を解析した。さらに遺伝子組換えインフルエンザウイルスを作製し、野生型と増殖性を比較した。

15:20～15:40

レクチンマイクロアレイを用いたA型インフルエンザウイルス粒子上の糖鎖プロファイリング法の開発

○日尾野隆大¹、松田厚志²、我妻孝則^{2,3}、岡松正敏⁴、迫田義博⁴、久野敦¹（¹産総研創薬基盤、²慶応・医、³JBA、⁴北大獣医）

レクチンマイクロアレイを用いて、A型インフルエンザウイルス粒子上の糖鎖を解析するための手法を確立した。本法では10の6乗TCID₅₀のウイルス培養液を材料に粒子上の糖鎖を解析できる。

15:40～16:00

NA分節欠損インフルエンザウイルスの性状解析

○藤田陽子¹、川上英良²、宮本翔¹、村本裕紀子¹、神道慶子¹、中野雅博¹、野田岳志¹（¹京大ウイ再研、²理研）

NA分節欠損インフルエンザウイルス（A/WSN/33）を作出後、ウイルス粒子内RNAを解析したところ、HA分節コード領域に大きな欠損が認められた。現在、NA分節欠損ウイルスの性状解析を行っている。

16:45～17:25 一般演題7（抗ウイルス薬）

座長：齋藤玲子（新潟大学大学院医歯学総合研究科・国際保健）

16:45～17:05

ウイルス動態、免疫学的指標及び伝播の相互的な相関について

○廣津伸夫¹、税所優²、長谷川貴大²、宍戸貴雄²（¹廣津医院、²塩野義製薬）

インフルエンザの臨床は、ウイルスが人の免疫に抗して人から人へ伝播する中で形作られるが、それぞれの影響因子（薬剤の違いによるウイルス動態）（抗体価、ワクチン接種歴、罹患歴）（家族内感染）の相関を検討する。

17:05～17:25

新規インフルエンザ治療薬バロキサビルマルボキシルの遅延投与による治療効果

○深尾圭太¹、熨斗武志¹、安藤良徳¹、野田陽弘²、馬場薫²、松本和美²、樋口直子¹、池田稔¹、宍戸貴雄¹、内藤陽¹（¹塩野義製薬株式会社、²シオノギテクノアドバンスリサーチ株式会社）

新規の経口インフルエンザ治療薬バロキサビルマルボキシル：キャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害剤の96時間遅延投与による治療効果を、A型ウイルス致死量感染マウスモデルを用いて検証した。